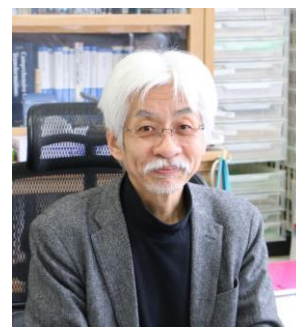


新副会長就任のご挨拶



山口大学 上村明男

会長である後藤先生の元で副会長を拝命いたしました山口大学の上村でございます。ひとことご挨拶を申し上げます。

私の専門は有機合成化学です。特に有機硫黄化学や有機ラジカル科学、および複素環化学を主たるフィールドとして研究活動を行っています。京都大学理学部化学教室で博士課程まで勉強し、その後山口大学教養部から研究者としてのキャリアをスタートし、英国留学と工学部への異動を経て、現在の所属である山口大学工学部応用化学科で有機化学の担当をしています。英国留学ではロンドンのインペリアルカレッジロンドン化学科の A. G. M. Barrett 教授の下で、不斉有機触媒反応の研究に携わりました。現在でこそ世界的隆盛を極めている有機触媒反応ですが、1993年の留学したときはまだその前夜でした。誰しもがそれが画期的なアイデアであると考えてはいたものの、どのようにして高効率な不斉反応を達成したらよいかわからず、それまでに成功していたわずか2つばかりの明星の明かりを頼りに、世界中の化学者が暗闇をさがしていた時代でありました。その後帰国し、宇部にて有機合成化学の研究を幅広く進め、例えば生理活性物質の合成研究ではインフルエンザの薬でよく知られている Tamiflu の形式合成などの成果を上げることができました。

10年あまり前、偶然の出会いから近所の県立研究所や化学企業の方と、プラスチックの化学原料化を目指した研究に手を染めることになりました。当初は分野も専門も違う研究内容なので、どうしてよいのかわかりませんでした。しかし超臨界やイオン液体などを使うと思ってもかけない反応が起こってくれることがわかりました。高分子の反応といっても、その素過程は有機反応ですから、有機合成化学でおなじみの反応が起こってくれます。最新の有機合成化学の方法論がそのまま高分子の高選択的な分解反応に役立つのは驚きでありました。このような新しい方法論が、直ちに実社会での実用化に結びつくわけはもちろんありませんし、そのためには解決せねばならない問題もたくさんあるかと思いますが、この経験と成果は、アカデミックの立場からプラスチック化学リサイクルの世界に新しい考え方をもたらすことができたと思っています。

本研究会は、いろいろな立場の研究者や技術者の集まりが、プラスチックをはじめとする高分子材料の再利用や再資源化を目指して多様な角度で議論し解決方法を考えていく、世界的に見てもユニークな団体であります。すでに国際学会も何度も主催もしくは共催した実力も有していると認識しています。本研究会のこれからの発展を図るため、そしてそのミッションである持続的な発展可能な社会を担うための新技術や新概念を産み出しつづけるため、少しでも寄与できればと思います。皆様方のご協力とご助力をよろしくお願いします。